

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	191700020		
法人名	有限会社ケアステーション せたな		
事業所名	グループホーム はるかぜ		
所在地	久遠郡せたな町北檜山区徳島58番地14 電話0137-86-0077		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年4月10日	評価確定日	平成20年4月21日

【情報提供票より】 (20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 19年 5月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000 円 冬季暖房費 5,000 円
敷金	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>		
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4			
要介護5	1	要支援2	2		
年齢	平均 87,3 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	せたな町立国保病院	道南ロイヤル病院
---------	-----------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームはるかぜは、昨年5月に開設した新しいホームで、せたな町役場近くの田園の中に位置している。運営者は、町の福祉委託事業に多種にわたり携わっており、地域福祉の向上に貢献している。ホームは明るく家庭的な造りで、近隣の農家より届けられる規格外の新鮮な野菜が食卓を豊かにし、地域住民との交流が盛んに行われている。隣家のハウス栽培メロンの収穫は、利用者にとって楽しみな行事で、職員は利用者に教わりながら漬物に加工したり、調理に使うなど豊富な知恵に感心している。管理者と職員は、住みなれた地域で継続的に暮らせるよう、本人、家族の意向を大切にして、様々な工夫や配慮をしながらケアをしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての自己評価、外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者は、質の向上によい機会であると理解し、管理者と職員は、自己点検し、カンファレンスで振り返り、反省点などを話し合う良い機会と理解し取り組んだ。また評価結果については、改善に取り組む姿勢がみられる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2回実施している。参加者の意見交換は活発であり、指摘された点については速急に対処し、経過を報告しているが、自己評価の内容については説明していない。5月に開催する予定なので、評価を議題することを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は、家族からの意見、苦情が気軽に話せるように、場面作り、声がけ、など配慮している。意見、苦情がある時は、ミニカンファレンスを直ぐに行い、申し送りノートに記録しチームで検討、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	農家の方が規格外の新鮮な野菜やメロンを届けてくれたり、地域の方々が大勢集まった餅つき大会など、地域交流事業をホームで実施している。また隣家の100円野菜販売所には利用者のためのベンチが置かれ、地域住民の温かさに対し、利用者が手作りのふきんを贈ったり等、交流は盛んに行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時の理念で、地域密着型サービスとしての役割を反映した内容にしていけないので、見直しが必要である。	○	事業所は日常的に地域密着型サービスとしての役割は実行しているため、理念として具体化した内容で、独自に作りあげた理念に見直すことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	声は耳から、話は目から、ながら介護しないこと。など、具体化したケア理念を作成し、申し送りやカンファレンスの時に理念に触れて確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の農家の方がもち米、地域の方がポシェットのプレゼントなどを持参してたくさん参加者により、地域交流事業をホームで開催している。利用者は、手作りのふきんを贈るなど交流が盛んにおこなわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価と外部評価であるが、運営者は、質の向上により機会をとらえ、管理者と職員は自己点検、カンファレンスなどで振り返りや見直し、反省点、改善点を話し合うよい機会であると理解し、今回の評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催している。参加者の意見、要望などは速急に対処して経過を報告しているが、自己評価の内容は説明されていない。	○	5月に運営推進会議を開催予定なので、評価についても話し合われることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターや町担当者とは常に情報交換しており、事業所の実情や利用者の様子を伝え、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、ホーム便りを発行をしている。職員が写真入りメッセージを添え、利用者の写真は個別にして、暮らしの様子を伝えている。体調の変化がある時は電話で家族に知らせ、記録している。月末には、金銭出納帳と領収書をコピーして確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情相談窓口を設置しているが、家族交流会の際、気軽に話せるような場面作りに配慮し、意見がある場合は、ミニカンファレンスを直ちに行い、申し送りで報告、チームで検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、離職を最小限に抑える努力をし、馴染みの職員によるケアを心掛けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者はホーム外の研修会については出張扱いにして、積極的に参加を薦めている、管理者、職員はカンファレンス会議の中で、身体拘束、感染症、救急救命、事故防止等、テーマを決めてホーム内研修をしており、記録は自由に閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者と交渉して、4月後半に近隣の同業ホームでの交流会に、管理者・職員を参加させる計画があり、サービスの質を向上させる努力をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	農家で多忙な家族が多い地域ということもあって、医療機関からの入居が大半である。利用者は病院の延長のつもりで生活をしているので混乱はないが、管理者と職員は、雰囲気馴染めるよう家族と相談したり連絡をとるなど工夫をしながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、教えてもらうことが多い。職員が夜勤の時には、優しい言葉をかけてくれるなど共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の何気ない言葉にも細心の注意をして記録し、チームで意向を把握する努力をしている。意思疎通が困難な時は家族から情報を得るなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見、要望を取り入れ、職員全員でアイデアを出し合い、カンファレンスで再確認し、センター方式で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの状態に合わせて、1ヶ月・6ヶ月の期間で見直しをしているが、変化が生じたときは、本人・家族と相談の上、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に沿い、外泊、外出支援をしている。介護施設に入所している家族のお見舞いやお墓参りなどへの同行など柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、通院支援、受診支援については近隣のかかりつけ医のみと説明しており、遠方のかかりつけ医については、家族にさせていただくことの承諾を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員が毎朝の検温時に変化に気づいた場合は、かかりつけ医・家族に連絡をとる。重度化した利用者の最期は、本人の家であるホームと、家族の希望や医師の指示のもと、チーム一丸となって看取った。葬儀も利用者の皆さんで執り行い、家族に大変感謝されている。		
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録は、所定の場所に保管し、管理されているが、日常の暮らしの中で馴れ親しみ過ぎて、プライバシーを損ねるような言葉を発する時もある。	○	管理者は利用者の呼び方や接する態度については、プライバシーを損なわない対応の仕方を職員全員で検討し、改善したい考えであり努力を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、散歩、買い物、図書館、など本人本位のペースに合わせて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を大切に献立を作成し、食事の下ごしらえ、盛り付け、後片付け、などできることを見守り、職員と一緒に楽しい食事ができる雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を決めているが、強制ではなく本人の希望する時間に入浴支援をしている。拒否される利用者にはタイミングをみて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から生活歴を聞いて本人が好きなおこと、楽しみにしていることを把握し、近隣農家のハウスの中でメロンの収穫や草花を植えるなど、一人ひとりに合わせた支援で、毎日楽しく過ごせるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の農家の野菜100円販売所には、利用者のためにベンチが置かれている。田んぼのそばにはアイガモが放し飼いにされ、利用者はその光景を楽しんでいる。利用者は天気の良い日はホーム内で過ごすことはあまりない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出入りが自由で、鍵はかけていないが、夜間は、防犯のため施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームには、非常時の出口が5箇所あり、避難場所も十分あるが、訓練は実施されていない。	○	消防署の協力で5月に実施する計画をしているが、夜間想定訓練、地域の方々の協力を得ての訓練になることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、一日1000ml～1500mlの確保を目安にし、克明に記録している。栄養のバランス、カロリー、塩分、食事量などは栄養士の作成した献立表を参考にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールはゆったりとして明るく、廊下には木製のベンチが所々におかれて、共有空間は居心地良く工夫されている。不快な音もなく、利用者の作成した季節感あふれる作品がフロアに飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談して、使い慣れた日用品、調度品を持ち込み、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。